

支 援

町田第一小学校2年 生活科「地域探検」

6月27日（火）に町田第一小学校の2年生が、班ごとに学校・家の周りを歩き訪ねる「地域探検」を行いました。児童が、自分たちの生活が地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とか



かわっていることを学ぶ生活科の授業です。児童の希望をもとに決めた訪問先へ、総勢24名の保護者ボランティア・地域ボランティアの引率で、班ごとにそれぞれ出かけました。

訪問先はルミネ町田、いずみの里(老人ホーム)、サンクス、若葉堂(和菓子)、メガロス町田(スポーツ)、町田市役所(指導課)、ロイヤルホスト町田店、サミットストア旭町店、フォルクスワーゲン町田店、マクドナルド中町店、萬蔵そば尾張屋、パリー

ミキ中町店、町田高校、町田第一中学校、町田調理師専門学校、未来保育クラブ、町田警察署、町田消防署、浄運寺、町田郵便局、町田 ANNEX(楽器)、中野屋(和菓子)、ツチヤ生花店、町田献血ルーム comfy です。児童はいずれの訪問先でも、働く人の話を聞いたり、用意した質問をしたり、メモをとったりなどしてしっかり学んでいました。市役所を訪れた児童たちは市長の仕事姿を市長室で特別に見ることもでき、屋上に上り「あのマンションが僕の家なんだ」などと楽しく見学もできました。

7月5日（水）に、引率をしてくださったボランティアの皆さんを招待して、地域探検で学んだことを発表する会を行いました。

2学年から「地域探検」実施についての依頼を受けたVCは、各学級6班で行動すること、できるだけ児童の希望を生かして訪問先を決めることなどを相談・提案するとともに、受け入れ店舗・事業所・公共施設などへの要請・交渉を行いました。学年から家庭へのお知らせ文書「地域探検活動協力をお願い」を当該の事業所等へFAX送信したり、定型の申請用紙を取り寄せて手続きをしたり、直接に出向いて交渉をしたりと様々でしたが、実施日の1週間前には24ヶ所の訪問先を手配できました。また、児童の引率に必要なボランティアはVCのつながりで地域協力者6名、学生ボランティア1名の協力が得られ、保護者ボランティア17名と合わせ、各班に1名ずつの配置となりました。教員が各々自由に行動し、それぞれの場で児童の指導・安全確保に当たることができ



制作りへの支援です。当日はVCが校門で待機し、全班の出発から帰着までを統括的にコーディネートしました。

町田第一中学校「放課後学習教室」

7月4日（火）に町田第一中学校で放課後学習教室が開かれました。それぞれに帰りの会、当番の掃



除などを終えた11名の1年生が英語の学習に励みました。先生方からの誘いを受け、生徒自身と保護者の意思で放課後の学習に参加しようと決めた生徒たちです。この日は生徒に寄り添う指導・支援ボランティアの地域協力者が11名だったために1対1の個別指導となりました。ひたむきに学習する生徒の姿には感心させられました。また、1時間の学習をしっかりと済まし、さあこれから部活動だと小走りに体育館に向かう数名の生徒の後姿も

深く印象に残りました。

学習内容や学習方法は英語科の教員が定めています。生徒はそれぞれに問題集に取り組みますが、ボランティア指導者も必要に応じて教員に確認をしながらの指導ができ、授業での学習をしっかりと補うことができる教室になっています。生徒の変化・成長を教員が把握し見守る中で、地域協力者の支援を得て進められている放課後学習教室です。本年度は火曜日に「英語」、木曜日に「数学」を原則に、学年の体制がとれた1年生を対象に開催されています。

VCが、2年前に学校から補充学習についての要望を受け、当校での実施可能な内容、方法、形態などについて探りつつ、VCミーティングなどでの情報や助言を活かしながら、学校に相談・提案して開催に至った放課後学習教室です。学習支援ボランティアとして参加くださった地域在住・在勤の方々、町田市ボランティアセンターに掲示されたVC作成のポスターやチラシを見るなどして応募されています。また、VCは1学年の放課後学習教室担当教諭らと実施日の調整、ボランティア指導者への連絡・調整など、実施にかかわるコーディネートも行っています。



つくし野中学校 I 組「お盆と盆踊り」

つくし野中学校特別支援学級 I 組の生徒が7月7日（金）に日本の年中行事「お盆と盆踊り」についての学習を行いました。I 組の総合的な学習の時間は「日本と世界の伝統と文化に学ぶ」をテーマに、ゲストティーチャーを招いての様々な体験的な学習が取り組まれています。そのひとつが「お盆と盆

踊り」です。講師は地元にお住まいで当校の元保護者でもある保護司さん、また、踊りの指導は浴衣姿の3名の地元の皆さんです。

お盆は盂蘭盆会（うらぼんえ）という仏教にちなむ行事であることが、「つくし野」・「南つくし野」が「小川」であった50年前の生活の様子にも触れられながら語られました。生徒は新盆、旧盆、迎え火、送り火、京都の大文字焼きのこと、精霊馬（馬・牛）などについて、講師の話に耳を傾けました。そして、仏教から始まり、皆が楽しむ地域行事になっている盆踊りについて学んだ後は、皆が輪になって代表的な盆踊り「炭坑節」を実際に踊って学びます。浴衣姿の指導者を見様見真似で習いながら、ほぼ全員が踊れるようになって終わりました。生徒たちは「もっと激しい踊りがいい気がする」、「けっこう難しい」、「楽しい」などの感想を述べるだけでなく、「浴衣を着る意味はなんですか」と質問、「学生服しかないけど盆踊りに参加してもよいのではないかと提言（？）することなどもできました。

特別支援学級から「日本と世界の伝統と文化に学ぶ」をテーマとする総合的な学習の時間についての相談を受けたVCが、題材や指導内容を考え、学級に提案し、ゲストティーチャーを探し出すなどして実施されている授業です。今回の講師は、入学式に参列された来賓にVCが直接に声かけをしてお願いしたゲストティーチャーです。VCは実施に当たっての連絡・調整・準備・片付けなどの支援にもかかわっています。



2017年度 町田市学校支援連絡会

町田市の学校支援センター事業において、学校支援ボランティア活動に係る情報交換を行うために開催されるのが学校支援連絡会です。本年度は6月29日（木）に町田市役所3階大会議室で、校長会代表、コーディネーター代表（連絡委員）、地域協力者の代表（連携団体）、教育委員会職員らの出席の下で開催されました。

北澤学校教育部長の挨拶、担当者からの事業説明、連携団体からの挨拶、そして各連携団体を囲んでのグループごとの情報交換が進められました。情報交換は時間を多めにとり、また2つ以上の団体と交流できる場を設定しての取り組みで、相互の理解を深める端緒となったことも期待される連絡会でした。

グループごとの「感想・意見付箋メモ」から（要旨）

桜美林大学

学生ボランティアは時間が合わないことが多い。

学生ボランティアはいろいろなニーズに応えられる。まず相談を。

学生は長期よりもスポットでのイベントのほうが参加しやすい。

玉川大学

学習ボランティアや部活動ボランティアでかかわっている。
学生は忙しいが、大学が調整してくれている。
放課後学習支援は距離と時間の兼ね合いによる。

法政大学

近場でなら授業の空き時間でボランティアができる。
学校支援ボランティアは学生の社会人としての学習の場にもなる。
放課後学習、サマースクールなどでの活動をお願いしたい。

和光大学

学校・教員により、年度により求められるものが変わる。
学生希望と小中学校の要望が合わないこともあり、限界もある。
中国籍の生徒のサポートをしている。

町田市生涯学習インストラクターの会

有資格で経験豊かなスーパー人脈がある。まず相談を。
団体の名称のせい学校への需要が増えない。
サマースクールなど、現にいろいろなことをやっている。

町田市シルバー人材センター

登録者数3000人。シルバーパスがあるのでどこへでも出向ける。
学習支援もOK！
人材派遣のむちゃぶりもOK。まず相談を。

町田市体育協会

部活動支援は中学校を中心に。小学校は教育活動支援を。
剣道、茶道など「日本の文化を教える」支援も行える。
学校支援センターを通じ、なんでも相談してください。

町田市町内会・自治会連合会

「まちとも」「新まちとも」についての理解を進める必要がある。
かいこの飼育、野菜作り、餅つきなどの授業サポート。

町田市農業協同組合

食育、キャリア教育、文化（歴史、楽器）、スポーツなど。
育苗センターの利用を。
学校支援ボランティアのノウハウをまとめた冊子があればいい。

町田市レクリエーション連盟

昔遊び、レクリエーション、遊びから学習へ。
特別支援学級への支援が多く、その他からの要請はほとんどない。
まちスポプロジェクトなど、学校へのかかわりを探っている。

町田ボランティアセンター

教材DVDも学校宛てでは届かない。VC宛てにするほうがよい。
福祉体験の教材DVDは事前・事後学習に極めて効果的。
国語の教科書内容に沿った点字体験が好評。

